

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報処理入門 I		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	松村 雅史
授業の概要				
パソコンの基本操作と設定をマスターする				
授業終了時の到達目標				
パーソナルコンピュータの基本的な操作方法からネットワークの利用等をマスターし、パソコンを仕事に活用させる能力を身に付ける				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1~ 2	情報処理の基礎	情報の意味、データの表現方法		
3~ 5	コンピューターシステム	コンピュータの歴史、入力・出力・記憶・中央処理装置		
6~ 7	ソフトウェア	基本・応用ソフトウェア、市販ソフトウェア		
8~ 10	ワード	ワードの使い方について 連絡文書		
11~ 13	エクセル	エクセルの使い方について データ集計 グラフ作成		
14~ 16	パワーポイント	パワーポイントの使い方について アニメーション スライドショー		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「情報処理入門」近畿大学九州短期大学通信教育部		出席率 授業態度 課題・レポート スクーリング	15.0% 15.0% 20.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
英会話 I		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	峯瀬 久実
授業の概要				
英語と日本語の発声、発音の相違点を理解し、英語の基本的な発音(母音と子音)を習得させる。 日常英会話の基本文や保育の際の英会話文を理解し習得させる。 西洋諸国の多様な文化、風習、マナーの相違等への理解を深める。 保育活動に有効な英語の歌やゲーム、遊戯を取り入れて実践させる。				
授業終了時の到達目標				
基本的な発音記号を読み、正確に発音する。 基本会話文を習得するとともに、外国への関心を高め、理解を深める。 外国人の園児や父兄とコミュニケーションが図れるよう、保育士業務に必要な英会話や英単語を習得する。 保育活動に有効な英語の歌やゲーム、遊戯などを実践しながら習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		アメリカ留学経験あり 英会話教室講師として10年の実務経験 これまでの経験を教材として実践的な授業を展開し、基礎英語を指導する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1	pre-unit-Please Speak More Slowly	英語で簡単な挨拶。英語で話しかけられた時の対処方法。		
2	Unit1- Hi, I'm Yuri Tanaka	人に何かを頼む表現。		
3	Unit1- Hi, I'm Yuri Tanaka	英語で自己紹介の5つのポイント。		
4	Unit2-Where Is the Multi-purpose Room?	位置を伝える表現。(園内の教室などの案内)		
5	Unit2-Where Is the Multi-purpose Room?	位置を伝える表現。(保育園周辺の道案内)		
6	Unit3-Good Morning. How are you Today?	今日の調子を聞く・答える表現		
7	Unit3-Good Morning. How are you Today?	英語の数字の発音や聞き取り		
8	リスニング 復習 期末テスト	聞き取りにくいリスニングの復習。 リスニングテスト&筆記テスト		
9~ 12	テキスト: Unit 4~5 英語でアクティビティ	好きなもの/嫌いなものを聞くWhatの表現 工作やお絵かきで使う道具を英語で? 場所を表す表現There's/There're...とat, in, onの使い方 園内や教室内の物を英語で? アクティビティ: 英語の歌、Fruits basket, Bingo, What time is it, Mr. Wolf? など。		

回	テーマ	内 容		
13～ 16	テキスト：Unit6 英語でアクティビティ	人に何かするよう／何かしないように言う表現（命令文） 遊具の英語名・物語「桃太郎」英語本 アクティビティ：グループ発表の準備とグループ発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Happy English for Childcare		出席率 授業態度 確認テスト 課題・レポート 期末試験 スクーリング	5.0% 10.0% 5.0% 10.0% 20.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもと身体表現		保育・幼児教育学科/1年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	加藤達, 板東一
授業の概要				
○ダンスの基礎知識 ○体の使い方の理解 ○子どもへの指導の仕方				
授業終了時の到達目標				
<後期> ○ダンスを踊り、終わった後の達成感 ○「おぎゃっと21」等のイベントの成功 ○現場での指導				
実務経験有無	実務経験内容			
有	<坂東講師>ダンススタジオを主催し、ダンスの指導を行っている経験や、保育園・幼稚園で園児にダンスの指導を行っている実績を生かし、学生に実践的に指導を行う。			
時間外に必要な学修				
これまでの授業内容を復習しておく。				
回	テーマ	内容		
1~4	リズムトレーニング	ダンスのステップやリズムの使い方を学ぶ		
5~8	振りつけ	その日に覚えたステップを応用して、ハーティーンを学ぶ		
9~14	指導の仕方と実践を通して	学生たちでダンスの指導を実践してみる		
15	まとめ	振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生涯スポーツ		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回回	1単位(30時間)	必須	加藤 達也
授業の概要				
幼児期及び青年期における運動・スポーツの意義や役割を実践を通して学ぶ。 障がい者・高齢者を対象とした運動・スポーツの意義や役割を実践を通して学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
幼児期及び青年期における運動・スポーツの意義や役割を理解する。 障がい者・高齢者を対象とした運動・スポーツの意義や役割を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		10年以上にわたり、理学療法を専門として行ってきた経験や、自身が経営する子どもへの運動教室での経験を生かし、学生を指導する。		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1~7	幼児期における運動遊び	幼児期における運動遊びを体験する。		
8~10	ルールのある遊び	ルールを工夫したあそびを体験する。		
11~13	障がい者・高齢者を対象とした遊び	体の機能を考えながら行う遊びを体験する。		
14~16	遊びを考える	遊びを考え、進行役を体験する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		スクーリング	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育原理		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	松村 雅史
授業の概要				
教育について基礎的知識を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
教育の諸原理について理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
事前に出された課題について考えておく。				
回	テーマ	内容		
1	教育とは	教育とは何か 日本の現状		
2~ 3	ルソー、ペスタロッチ、フレーベルの幼児教育思想についてそれぞれ簡潔にまとめ、近大幼児教育しそについて考察しなさい。	各教育観の理解		
4~ 5	近代日本における幼児教育制度の成立と展開について、テキストの内容をふまえて整理しなさい。ただし、以下の法令は必ず取り上げ、その内容や変遷がわかるようにすること。 (法令: 学制、小学校令、幼稚園令)	幼児教育制度の流れを知る		
6~ 7	2008年の中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習のあり方についてまとめ、その内容について考察しなさい。	生涯学習という考え方について		
8~ 9	日本における幼児教育制度の現状について、とくに2015年度以降の展開に焦点を当てて論述しなさい。	近年の幼児教育制度について		
10	レポート課題について(幼児の理解のために必要なことはなにか)	幼児理解に必要なことについて		
11~ 12	乳幼児期の教育をめぐる国際的な動向についてテキストの内容をふまえ整理し、日本との比較を意識して考察しなさい。	乳幼児期教育について		
13~ 14	「教育評価」について、その基礎的な考え方を整理するとともに、今日の学校教育における子どもの学力評価の方法について説明しなさい。	評価の種類と方法 評価の意味		

回	テ ー マ	内 容		
15	幼児教育に関連して「連携」が要求される事例を一つ取り上げ、その具体的な取組と課題について論述しなさい。	様々な機関との連携		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育のための教育原理		期末試験	100.0%	9月の科目終末試験にて評価。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会福祉		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	清水 智子
授業の概要				
社会福祉の歴史を踏まえて、社会福祉の全体像を学習する。 社会保険および子ども福祉、障害者福祉、高齢者福祉、低所得者対策などの詳細を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
社会福祉、社会保障の必要性を理解できる。 福祉施策の各論について、概要を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護支援専門員としての業務経験を生かし、社会福祉制度について実例をもとに授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
前回学習したところを復習し、次回学習内容を予習しておく				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 社会福祉とは	オリエンテーション 福祉の意味、用語の整理		
2	日本の社会福祉の歴史	古代から近世の慈善救済 戦後の社会福祉		
3	社会保障と社会保険	社会保障の体系 社会保険制度		
4	医療保険	医療保険制度		
5	年金保険	年金制度		
6	子ども福祉	法制度と専門機関 児童虐待、子育て支援		
7	障害者福祉	障害とは 障害者総合支援法		
8	高齢者福祉	高齢者を取り巻く状況 法制度		
9	介護保険制度	介護保険制度 ケアマネジメント		
10	低所得者福祉	生活保護制度 低所得者対策		
11	地域福祉	地域福祉とは 地域福祉の担い手		
12	医療福祉	医療機関、MSW 精神保健福祉		
13	社会福祉施設と専門職	社会福祉施設の種類 専門職と資格制度		
14	相談援助	ケースワークの原則 相談援助のプロセス		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめとテスト	まとめ 前期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	コメディカルのための社会福祉概論 第4版	期末試験 出席率 授業態度	60.0% 20.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育者論		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
保育者の役割や倫理、求められる知識や技術、専門性等について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
保育者の役割や倫理について知る。 保育において必要な知識や技術、専門性等について知る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格をもち、保育所、附属幼稚園、公立幼稚園等の現場で5年の実務経験 一時保護所、子育て支援団体等でのボランティア経験、これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
・ 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 自分の理想とする保育者像について考える	授業内容や目的 自分の保育者像		
2	保育者の役割・職務内容	保育者の役割 職務内容		
3	保育者の倫理	専門的倫理 倫理綱領		
4	保育者の資格と責務	保育士の定義 幼稚園教諭の職務 保育教諭とは		
5	保育者の資質と能力	資質・能力とは		
6	養護および教育の一体化	「養護」と「教育」		
7	家庭との連携と保護者に対する支援	保護者支援		
8	計画に基づく保育の実践と省察・評価	計画・実践・省察・評価		
9	保育の質の向上	質の向上と評価		
10	職員間の連携・協働	体制の構築		
11	専門職間および専門機関との連携・協働 地域社会との連携・協働	連携と協働		
12	資質向上に関する組織的取組	資質向上		

回	テーマ	内 容		
13	保育者の専門性の向上とキャリア形成	保育者の専門性 キャリア形成		
14	保育におけるリーダーシップ	リーダーシップ		
15	まとめ	授業内容のまとめ 授業内容理解の把握		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
監修 公益財団法人 児童育成協会/編集 矢藤誠慈郎 天野珠路『保育者論』中央法規 自作プリント		出席率 期末試験	20.0% 80.0%	・主体的に授業に参加する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教職概論		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	松村 雅史
授業の概要				
教育とは何か、教師の立場とは何か、歴史や理論から学ぶ				
授業終了時の到達目標				
幼稚園教諭免許所持に値する教育の知識を身に付ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
前回学習したところを復習し、次回学習内容を予習しておく				
回	テーマ	内容		
1	教育とは何か	教師の立場 教育の意味		
2	教育観	教育の考え方		
3	服務義務	教職員の服務義務		
4	現代社会の教師の役割	現代社会における教師が担う役割		
5	子どもの仲間集団の意義	仲間集団の形成と意義		
6~ 7	教師に求められるカウンセリングマインド	教師が身につけておくべきカウンセリングマインド		
8~ 9	教師の資質	身につけるべき資質		
10~ 11	幼稚園・保育所の一日の流れ	幼稚園・保育所の一日の流れについて、留意点や違いなどから学ぶ。		
12	教員の種類と連携	所属する教員の種類と連携について		
13~ 14	教職のもつ専門性	専門性 免許		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教職入門 未来の教師に向けて		出席率 期末試験	20.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育課程総論		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	松村 雅史
授業の概要				
より良い保育のための計画と評価を、保育の現場を想定して学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
教育課程について、目的、評価、計画の側面から理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 教育課程とは	授業内容を知る 教育課程		
2	幼児期の特質	幼児期の特質について		
3~ 4	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育の計画	現場における計画		
5~ 6	教育課程および全体的な計画等の編成の実際	教育課程と保育課程、全体的な計画		
7~ 8	教育・保育の指導計画の作成にあたって	指導計画の作成について		
9	指導計画の作成	指導計画の作成		
10	指導計画の実際	計画を立てるときの基本とは		
11~ 12	教育・保育の記録と省察	記録と省察		
13~ 14	教育・保育の評価と改善	評価と改善		
15	まとめ	授業内容の確認 授業内容理解の確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新しい幼児教育課程総論		出席率 期末試験	20.0% 80.0%	・主体的に授業に参加する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育の計画と評価		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤原 希

授業の概要

より良い保育のための計画の作成方法と評価を、保育の現場を想定して学ぶ。

授業終了時の到達目標

教育や保育に、なぜ計画や評価が必要なのかを知る。
指導計画と記録の作成と評価、改善の基本を知り、実践できるようになる。

実務経験有無

実務経験内容

有

保育所、幼稚園での勤務経験を活かし、実際の幼児の具体的な例をもとに実践的な計画の作成、評価を行う。

時間外に必要な学修

次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 保育・教育の計画と評価の基本	授業内容を知る 計画と評価
2	オリエンテーション 保育・教育の計画と評価の基本	計画と評価
3	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育の計画	現場における計画
4	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育の計画	現場における計画
5	教育課程および全体的な計画等の編成の実際	教育課程と保育課程、全体的な計画
6	教育課程および全体的な計画等の編成の実際	教育課程と保育課程、全体的な計画
7	教育・保育の指導計画の作成にあたって	指導計画の作成について
8	教育・保育の指導計画の作成にあたって	指導計画の作成について
9	指導計画の作成	指導計画の作成
10	指導計画の実際	計画を立てるときの基本とは
11	教育・保育の記録と省察	記録と省察
12	教育・保育の記録と省察	記録と省察
13	教育・保育の評価と改善	評価と改善

回	テ ー マ	内 容		
14	教育・保育の評価と改善	評価と改善		
15	まとめ			
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	宮川萬寿美 編著/野津直樹、内山絵美子 『保育の計画と評価－豊富な例で1からわかる』 萌文書林	出席率 期末試験	20.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
造形表現(指導法)		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	宮澤 知世
授業の概要				
○造形表現に必要とされる基礎的な理論や技術を学習する。 ○造形能力や感性を高め、表現活動を楽しむ。				
授業終了時の到達目標				
○絵画や工作における造形能力を育て、表現することができる。 ○学習した能力を幼児の造形活動の教育現場において発揮できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		高等学校教諭免許取得 カラーコーディネーターの資格を活かし、専門学校等で10年以上の実務経験 これまでの経験を活かし、学生の表現力を高める実践的指導を行う		
時間外に必要な学修				
前回の授業内容を復習・完成しておく。				
回	テーマ	内容		
1~3	工作	色紙、色画用紙、新聞、ペットボトル、牛乳パックなどを使用した制作を行う。		
4~5	絵画	スタンプング、吹き流し、スクラッチ、フロッタージュなどの製作を行う。		
6	オートマティズムによる表現	静物画、人物画・ぬり絵など 材料と用具について		
7	色彩について	色の認知、色の三属性、色相環などについて学習する。		
8	幼児の造形教育史 表現形式の特色 自己評価、合評会	近現代の幼児造形教育の歴史 発達段階による特色		
9~11	立体造形	牛乳パック・ペットボトル・新聞紙を使用した制作 折り紙等を使用したペーパークラフト		
12~13	オートマティズムによる表現	スクラッチ、吹き流し、スタンプングなど		
14~15	幼児の造形教育史 表現形式の特色	近現代の幼児造形教育の歴史 発達段階による特色		
16	自己評価・合評会	作品のプレゼンテーションを通して評価する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 課題・レポート スクーリング	5.0% 5.0% 40.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と言葉		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい保育内容「領域言葉」の理解と実践 ・言葉の発達の理解や指導について正しい考え方、導き方の根拠 ・幼児の成長と発達のための適切な指導や援助 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の発達に関する理論の理解 ・言葉の発達を子どもを取り巻く環境からの影響との関連性の理解 ・保育者が実践すべき指導や援助の理解の手がかりを事例を通して、検討し、理解を深める 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、の資格をもち、幼稚園等の現場での実務経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
前回学んだことを復習しておく				
回	テーマ	内容		
1	人の生活と言葉	言葉が人間生活の中で果たす役割・機能 乳幼児の言葉の特色		
2	乳幼児の言葉の発達と環境	子どもの発達と言葉の発達 言葉の発達と環境 言葉の問題の理解と園における対応		
3	領域「言葉」のねらいと内容	保育内容としての領域「言葉」について		
4	領域「言葉」の具体的な内容	聞く力、言葉による表現、考え想像する力、標識や文字、記号などへの興味や関心		
5	言葉かけを中心としての援助とかかわり	0.1.2.3歳児と保育者のかかわり 4.5歳児の活動と保育者のかかわり		
6~7	児童文化財を通しての援助とかかわり	お話と絵本 子どもの発達と絵本 紙芝居やパネルシアターの必要性 子どもにとってのおもちゃとは		
8	言葉の育ち(言語発達)をとらえる視点	考える力や言葉から広がるイメージの育ち 視点と保育評価の活かし方		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『言葉』近畿大学九州短期大学テキスト 『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 自作プリント		出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験 その他	10.0% 10.0% 20.0% 50.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
言葉 (指導法)		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位 (16時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
1. 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育要領における言葉の領域の理解 ・ 幼児の成長と発達のための適切な指導や援助等、実践できる力の習得				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の矢鎖や言語習得の理論の理解 ・ 言葉の発達を、子どもを取り巻く環境からの影響との関連性の理解 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、の資格をもち、幼稚園等の現場での実務経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
テキストを読んでおく				
回	テーマ	内容		
1	1. 保育の基本と領域「言葉」	領域「言葉」の「ねらい」と「内容」		
2	2. 乳幼児の言葉の発達	乳幼児の有能さと身体的関与 保育者との関係性と言葉の発達 コミュニケーションとしてのことば		
3	3. 領域「言葉」と保育方法	指導計画と領域「言葉」 言葉の育ちと環境構成 聞く、伝える、創造する体験		
4~5	4. 文化財との出会い	子どもの発達と絵本 共通の絵本を通じた協同的思考		
6~7	5. 言葉と保育の実際	2者関係から3者関係以上の関係の中での言葉の発達 園生活が育む好奇心 ごっこ遊びと劇的表現		
8	7. 領域「言葉」の変遷	明治期～戦後、6領域から5領域時代		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉 (近畿大学九州短期大学テキスト) ・ 保育所保育指針 ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・ 自作プリント 		スクーリング	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と人間関係		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	大石 恵子
授業の概要				
保育内容の領域「人間関係」の意義と、人とのかかわりを通じた幼児の育ちについて				
授業終了時の到達目標				
領域「人間関係」のねらいと内容、社会状況について学ぶとともに、人と関わる中での幼児の育ちについて理解を深める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として36年間実務経験あり 現場での幅広い経験を活かして学生に実践的に指導を行う		
時間外に必要な学修				
前回学習したところを復習し、次回学習内容を予習しておく				
回	テーマ	内 容		
1	領域「人間関係」の社会的背景	家族・地域社会の変化 他		
2	子どもの発達と人間関係	乳幼児期における人間関係の理解 他		
3	領域「人間関係」のねらいと内容	幼児期に育むべき資質と能力 他		
4	保育者の関わり方と集団づくり	年齢による発達段階と人間関係の特徴 他		
5	対話から生まれる協同的な学び 幼児教育・保育における子ども同士の関係	「個」と「集団」の関係について 友だち関係の息苦しさ 他		
6	子どもとのかかわりを通じた幼児理解と評価 特別な支援を必要とする子どもの援助	保育の質と保育者/子ども関係 障害のある子どもの理解 他		
7	子どもの家庭背景を踏まえた幼児教育・保育の視点 幼児教育・保育と小学校との接続の課題	家庭の多様性 小学校移行の考え方 他		
8	幼児教育・保育における性をめぐる課題 多文化共生社会における幼児教育・保育の課題	保育所保育指針における性 グローバル化する世界 他		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼児と人間関係(同文書院)		出席率 授業態度 確認テスト 課題・レポート	10.0% 20.0% 30.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係(指導法)		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	大石 恵子
授業の概要				
保育内容の領域「人間関係」の指導方法について				
授業終了時の到達目標				
領域「人間関係」における保育内容や、人とかかわる力を育てる保育者の役割と援助を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として36年間実務経験あり 現場での幅広い経験を活かして学生に実践的に指導を行う		
時間外に必要な学修				
予習と復習をおこなう				
回	テーマ	内容		
1	領域「人間関係」 「人間関係」にかかわる現代社会の状況	領域「人間関係」においてはぐくむもの 「人とかかわる力」の捉え方 自我の芽生えと人とのかかわり 共生と領域「人間関係」 少子化 家族の変化 他		
2	人とかかわる力の発達 保育の中での子どもの体験と学び	発達の捉え方 乳幼児の発達の姿 遊びと子どもの学び 子ども同士のかかわりにおける学び 保育者とのかかわりにおける学び 他		
3~ 4	園生活の発展ー協同性の育ちに向かって 人とかかわる力を育てる保育者の役割と援助	一人ひとりの自己充実 友達とかかわる楽しさ 互いを意識し気遣う 園生活の基盤としての保育者 遊び仲間としての保育者 子どもの理解者としての保育者 他		
5	人とのかかわりで気になる子どもへの援助 人とかかわる力を育てる大人の間関係	保育者が気になる行動とその理由 “気になる子”と見る保育者の側の問題 子どものかかわりの世界を支える保育者同士の関係 子どものかかわりの世界を育てる大人の間関係 他		
6~ 8	協同する遊び(実技)			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育内容「人間関係」(建帛社)		出席率 授業態度 課題・レポート 実習・実技評価	10.0% 20.0% 30.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と環境		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	松村 雅史
授業の概要				
五領域「環境」について、実際に触れることで、体験学習を行う。 環境を通しての学び、留意点を理解する。				
授業終了時の到達目標				
五領域「環境」の内容を理解し、実践する力が付く。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
事前に出された課題について考えておく。				
回	テーマ	内容		
1	五領域「環境」とは	環境について		
2	自然に触れる1	身近な自然とは		
3	自然に触れる2	実際に触れ、発見や留意点を学ぶ		
4	自然に触れる3	季節ごとに違う自然の移り変わりを活かす		
5~6	生き物について	現場での生き物との関わり方		
7	数量・図形への興味	どのように数的興味を持たせるか		
8	まとめ	授業のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		出席率 課題・レポート 期末レポート	10.0% 40.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
環境(指導法)		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	松村 雅史
授業の概要				
五領域「環境」について、実際に触れることで、体験学習を行う。 環境を通しての学び、留意点を理解する。				
授業終了時の到達目標				
五領域「環境」の内容を理解し、実践する力が付く。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~4	動物園でのふれあい	内容「身近な動植物」「生命の尊さ」 動物への興味を持たせる工夫		
5~8	植物などの自然環境	身近な植物に触れる 遊びへの工夫		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		授業態度	100.0%	【準備学習】 事前に出された課題について考えておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽表現(指導法)		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山根 公美子
授業の概要				
幼児の音楽指導において必要な技術を身につける				
授業終了時の到達目標				
豊かな表現法を身につけ、情操教育としての音楽指導ができる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	エレクトーン演奏グレード5級、ヤマハ指導グレード5級の資格を持ち、エレクトーン教室等で31年の実務経験 この経験を活かし、学生の音楽表現力を高める実践的指導を展開する。			
時間外に必要な学修				
課題などの練習をおこなう。				
回	テーマ	内容		
1~4	声楽曲、ピアノ演奏曲	レパートリー曲をアナリーゼし演奏する		
5~8	アンサンブル	よく知られた楽曲をアレンジする ⇒ 演奏する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 実習・実技評価 期末試験	25.0% 25.0% 25.0% 25.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
劇あそび(指導法)		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
表現の領域に関するねらいと内容の理解 リズムダンス、劇、表現の発表、鑑賞を中心とした活動の展開				
授業終了時の到達目標				
自分自身が表現することを通して、イメージと動きの関わりを体得 子どもの豊かな感性と表現する力を引き出すための指導法、援助の体得				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士の資格をもち、幼稚園等の現場で30年以上の実務経験 専門学校、大学での教員経験 これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
復習をしっかりとしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	1. 領域「表現」の理解	領域「表現」のねらいと内容 表現の視点から劇遊びを考える		
2~3	3. 表現することを楽しむための援助	①ごっこ遊びから劇遊びへ ②役で表現 ③イメージや表現の場を共有して創る ④観られることへの意識 ⑤お互いが評価することの経験		
4	4. 表現遊び「子どもたちの劇あそび」	ことばや動きと劇の組み立てにむけての指導や援助 自由表現と模倣表現		
5~7	5. 演じる体験	年齢や発達段階を踏まえたねらいの設定		
8	6. 発表と観賞 7. 反省評価 まとめ	台本と教材研究、作成 まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
楽しい劇遊び 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 自作プリント		スクーリング	100.0%	出席率10% 授業態度10% 課題・レポート20% その他(実技・協調性)60%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日本国憲法		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	楳本 あゆみ
授業の概要				
<p>国の基本法である憲法が基本的人権という最も尊重されるべき権利を如何に重要に捉えているかを理解する。 三権分立の仕組みを憲法条文で理解し、相互に抑制されている権力構造の仕組みを知る。</p>				
授業終了時の到達目標				
日本国憲法の三大原則を知り基本的人権の中でも特に精神的自由権の重要性が分かる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		行政書士として40年以上の経験 この経験を活かし、学生に身近な事例を示して具体的授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
前回の授業内容をしっかりと復習しておく。				
回	テーマ	内容		
1	現代の憲法①	憲法とは何か		
2~3	現代の憲法②	日本国憲法の制定		
4	国民主権と象徴天皇	国民主権 象徴天皇		
5	平和主義	平和主義の現実 平和主義と国際貢献 集団的自衛権		
6	基本的人権①	基本的人権とは何か 包括的基本権		
7~9	基本的人権②	精神的自由権 経済的自由権 社会権		
10~11	基本的人権③	人身の自由と刑事手続の保障 参政権 国民の義務		
12~13	統治機構	統治機構の原理 国会 内閣 裁判所 地方自治		
14~15	憲法の保障と改正	憲法の保障 憲法改正		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
日本国憲法		出席率 授業態度 課題・レポート	30.0% 10.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康科学		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	加藤 達也
授業の概要				
<p>スポーツの概念を理解し、現代社会におけるその役割や現状を学ぶ。 健康の概念を理解し、現代社会における現状や問題を知る。その上でどのようなことに取り組む必要があるのか学ぶ。</p>				
授業終了時の到達目標				
スポーツや健康とは何かを理解し、生活や子どもへの指導に役立てることが出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		NSCA認定資格および理学療法士としての資格を活かし学生を指導する		
時間外に必要な学修				
自己学習に努める				
回	テーマ	内容		
1	スポーツの概念	スポーツ概念の広がり スポーツの本質的特性		
2	社会生活の変化とスポーツ	余暇社会とスポーツ 地域社会とスポーツ		
3~ 4	スポーツ参加の現状と課題	国民のレジャー活動とスポーツ 国民スポーツの諸相 国民スポーツ発展のために		
5	健康概念	健康という言葉 健康観の変遷 WHOの「健康」定義		
6~ 7	健康・体力と運動	現代社会の健康阻害要因 運動不足の実態 身体運動と健康 体力の概念 体力の構成要素		
8	生活におけるトレーニング	運動処方 トレーニングの科学的基礎		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
生涯スポーツ・健康科学		出席率 期末試験	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育原理		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
<p>保育の意義及び目的を理解し、保育者として子どもや保護者に関わるために必要となる基本的な視点や取り組みについて深める。 法令及び制度としての保育所の役割や目的の理解とともに、保育所保育指針において保育の基本を理解し、保育の目的や意義を考察する。 また、保育の思想や歴史を概観することから、現代の保育との関連性や現代社会の抱えている子どもの課題を考察する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育の基本的内容を理解し、保育の本質を探究することができる。 また、様々な保育を取り巻く環境をふまえ、保育の現状と課題について本質を探究でき、自分なりの見解を持つことが出来る。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、の資格をもち、幼稚園等の現場での実務経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
予習と復習をしっかりとこなす				
回	テーマ	内容		
1~2	幼児の特質と保育の意義・目的	「保育」とは？ 保育の理念と概要 乳幼児期の発達的特質		
3~5	保育思想と児童観の変遷	古代、中世、近世から近代 諸外国の保育の思想と歴史 近代幼児教育思想の形成		
6~8	保育に関する法令・制度	19世紀~20世紀における施設や制度の確立 子ども家庭福祉と保育の位置づけ 子ども子育て支援制度		
9~10	我が国における幼稚園、保育所の成立と変遷	幼稚園・保育所(明治-大正-第二次大戦期) 幼稚園・保育所・その他の保育施設の保育目的と規定		
11~13	保育所保育指針における保育の基本	保育内容の変遷 保育の方法形態の分類と活動の実践的分類 保育方法の基本原則・目標・内容・遊びの意義・計画・評価 保護者との連携		
14~15	さまざまな保育と課題	諸外国の保育の現状 日本の保育の現状と課題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育原理 現場の視点で学ぶ保育原理 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 自作プリント		出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験	10.0% 10.0% 20.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会的養護 I		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	太田 敬志
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の概略について ・施設養護の種類と家庭養護(里親)の種類と役割について ・社会的養護の場で働く職員の種類と役割について 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の歴史的背景について学ぶとともに、児童虐待や発達障害など社会的に支援をしなければならない子どもの現状について理解する。 ・子どもたちへのケアと支援について理解する。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		児童指導員の資格もち、児童養護の現場で30年以上勤務 この経験を活かし、より具体的授業を展開する		
時間外に必要な学修				
予習と復習をしっかりとこなす				
回	テーマ	内容		
1	社会福祉とは何か	社会福祉とは何か ・社会福祉とは・社会的養護の歴史的背景		
2	社会的養護とは何か①	教科書12ページ～30ページ		
3	社会的養護とは何か②	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書12ページ～30ページ ・DVDで児童養護施設のドキュメントを観て感想を提出 		
4	施設養護と家庭養護①	教科書34ページ～58ページ		
5	施設養護と家庭養護②	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書34ページ～58ページ ・DVDで乳児院の現状を学ぶ 		
6	措置制度と措置施設	教科書62ページ～73ページ		
7	児童虐待	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の現状・定義を学ぶ ・DVDを観ての感想を提出する 		
8	利用・契約制度①	教科書80ページ～96ページ		
9	利用・契約制度②	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書80ページ～96ページ ・DVDで自立援助ホームのドキュメントを鑑賞する 		
10	社会的養護の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書100ページ～114ページ ・DVDで石井十次の実践より学ぶ 		
11	社会的養護に携わる職員とFSW	教科書118ページ～144ページ		
12	発達障がい	DVDで発達障がいについて学ぶ		
13	里親制度	教科書148ページ～160ページ <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県で里親をしている人の体験を聴く 		
14	児童養護施設の運営管理	教科書164ページ～175ページ		

回	テ ー マ	内 容		
15	自立とは	自立とは何か 5つの自立から支援について学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
社会的養護 I 萌文書林 2018		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育内容総論		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
保育所保育指針を中心に保育の基礎知識の習得や基本原理の理解				
授業終了時の到達目標				
基本原理を踏まえ、指導計画の立案や実践の構築				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、小学校教諭、保育士の資格をもち、幼稚園等の現場の実務経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
予習と復習をおこなう				
回	テーマ	内容		
1	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂のポイント	資質・能力・5領域について 保育の基礎知識及び技能の基礎(保育方法の史的展開) 思考力、判断力、表現力等の基礎、人間性		
2	保育所保育の役割とは	保育の基本原理について		
3	保育の「ねらい」「内容」の意味	保育のねらいとは 「ねらい」に対する「内容」とは		
4	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿①	5領域と10の姿		
5	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿?	5領域と10の姿		
6	指導計画立案の考え方と書き方の基本	指導計画作成にあたっての配慮すべき事項とは 計画立案		
7~ 8	小学校への接続	小学校への円滑な接続とは まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10の姿プラス5・実践解説書 保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 現場の視点で新要領・指針を考えあう 自作プリント		出席率 授業態度 課題・レポート 実習・実技評価 その他(演習)	10.0% 10.0% 30.0% 20.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児の心理学		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	松村 雅史
授業の概要				
保育現場での心理学について				
授業終了時の到達目標				
保育現場での心理学を理解し、身に付ける				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
前回の授業内容を復習しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	学習とは 記憶とは	行動主義、認知主義 記憶のメカニズム		
2	動機付けとは 知能とは	動機とは何か 知能の定義、知能検査		
3	遺伝説、環境説	発達に影響する要因		
4	原始反射について	原始反射の種類		
5	発達障害とは	発達障害の種類、特徴、対応の仕方		
6	保護者との関わり	保護者と関わるための視点		
7	事例の読み解き	事例をもとに学習		
8	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 確認テスト 期末試験	20.0% 20.0% 10.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育方法論		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	松村 雅史

授業の概要

幼児期にふさわしい教育・保育の方法について

授業終了時の到達目標

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術などを理解する

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	教育方法の基本理論	フレーベルの幼児教育方法 他
2	日本の幼児教育方法の歴史	幼稚園の誕生と初期の幼児教育実践 他
3	環境を通して行う教育	環境構成の視点 他
4	子どもの育ちと物的環境	「学び」＝「物事のとらえ方」を豊かにする 他
5	子どもの育ちと人的環境	人的環境としての保育者 他
6	子どもの育ちと社会的環境	地域社会と子どもの育ち 他
7	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程	「生きる力」とカリキュラム・マネジメント 他
8	「主体的・対話的で深い学び」と教育方法の関係	幼稚園教育と「主体的・対話的で深い学び」 他
9	幼児理解に基づいた評価	「幼児理解に基づいた評価」の方法 Hか
10	幼児教育・保育における遊び	「遊び＝学び」について考える 他
11	幼児教育・保育における計画と評価	保育における評価 他
12	幼児教育・保育における情報機器の活用	幼児教育・保育実践を支援するためのICT活用他
13	情報活用能力と幼児教育・保育	情報活用能力を育む指導 他
14	幼児教育・保育のこれから	「保育の質」を高めるために 他

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ			
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	幼児教育・保育のための教育方法論（ミネ ルヴァ書房）	出席率 授業態度 確認テスト 課題・レポート	10.0% 20.0% 30.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育心理学		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	松村 雅史
授業の概要				
教育現場での心理学について				
授業終了時の到達目標				
教育現場での心理学を理解し、身に付ける				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1~2	心理学とは	様々な場での心理学		
3	発達とは	原始反射		
4	愛着	愛着の形成		
5	人と人が関わる	対人関係における心理学		
6	言語機能の発達	言語の発達の仕組み		
7	認知発達	認知の発達の仕組み		
8	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育に生かす教育心理学		授業参加度 課題・レポート 確認テスト	50.0% 20.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康(指導法)		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
「健康」の領域に関するねらいや内容を基本に、保育所や幼稚園また認定こども園において、子ども達の心とからだの健康を培っていくための環境や具体的援助。				
授業終了時の到達目標				
「健康」の領域のねらいや内容を理解し、「生きる力」の育成の意味を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士の資格をもち、幼稚園等の現場で30年以上の実務経験 専門学校、大学での教員経験 これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
復習をしっかりとこなうこと。				
回	テーマ	内 容		
1	保育の基本と領域「健康」 ※幼稚園教育要領、保育所保育指針に示される「ねらい」と「内容」	健康の領域とは ねらい、内容とは 保育課程と教育課程と領域「健康」		
2	乳幼児の「健やかな心と身体」	乳幼児の発達の捉え方 乳幼児期の心の安定とは 基本的生活習慣の発達：基本的生活習慣とは 安全と保健指導：事故防止と安全対策		
3	食育に関する保育内容	食べる力と心の育ち 食育の環境とは 食事に関する保育内容と指導法		
4	健康と保育の実際	戸外活動の必要性 戸外遊びから育つ：事例からの考察		
5	健康や病気	予防と健康な生活 子どもの体力づくり 運動意欲を育む指導とは 運動遊びの指導計画の作成と指導法		
6~ 7	子どもを育むリズム遊び	リズムあそびから育つ：眠っている脳をおこす リズムあそびを体験：ピアノに合わせて体験 手の働きと脳の発達 手は脳の出張所：5本指の効用		
8	地域における子育て支援 まとめ	まとめ・課題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育内容「健康」 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 「手のうごきと脳のはたらき」 自作プリント		出席率 授業態度 課題・レポート 実習・実技評価	10.0% 10.0% 30.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と音楽表現		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山根 公美子
授業の概要				
幼児の音楽指導において必要な技術を身につける				
授業終了時の到達目標				
豊かな表現法を身につけ、情操教育としての音楽指導ができる こども園などで使われる楽器や子どもたちの能力の範囲内で、楽しいアレンジができること				
実務経験有無		実務経験内容		
有		エレクトーン演奏グレード5級、ヤマハ指導グレード5級の資格を持ち、エレクトーン教室等で30年以上の実務経験 この経験を活かし、学生の音楽表現力を高める実践的指導を展開する。		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~4	声楽曲、ピアノ演奏曲	レパートリー曲をアナリーゼし演奏する		
5~8	アンサンブル	よく知られた楽曲をアレンジする ⇒ 演奏する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 ピアノ1 ピアノ2 声楽	10.0% 30.0% 30.0% 30.0%	各項目評価詳細 出席率25% 授業態度25% 実習・実技25% 試験25%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習事前事後指導		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	松村 雅史
授業の概要				
教育実習に向けて、教育実習の目的・意義を理解し、準備を行う。				
授業終了時の到達目標				
教育実習の意義・目的を理解し、準備ができる。 事後指導を通し、学んだことを確認し自身の力にできる。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	保育と教育の違い	保育所・幼稚園・認定こども園の違い		
2	記録の取り方	子どもの姿が反映された記録の取り方		
3	制作と活動について	年齢によって変わる遊びの内容の理解		
4	指導案作成	模擬指導案の作成		
5~6	模擬保育(活動遊び)	活動遊びを通しての学び、留意点の理解		
7	模擬保育(制作遊び)	制作遊びを通しての学び、留意点の理解		
8	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園保育・教育要領		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
乳児保育 I		保育・幼児教育学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
子どもの成長発達、発達課題や保育内容および保育実践の方法の学習				
授業終了時の到達目標				
乳児保育についての知識や技能の基礎を習得し、保育者としての役割を自覚する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、小学校教諭、保育士の資格をもち、幼稚園等の現場の実務経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
予習と復習をおこなう				
回	テーマ	内容		
1~2	乳児保育はなぜ必要か	乳児保育の歴史と現状の理解 乳児保育の現状 乳児院現状と課題		
3	保育に関する法令と制度	児童福祉施設の設備と運営に関する基準 児童福祉法・労働基準法		
4	保育所保育指針	保育所保育指針とは 保育所に求められる役割		
5~6	乳児保育のポイント	0歳、1歳、2歳児の発達過程 乳児の保育環境・安全管理・連絡帳の書き方		
7	ポルトマンの考えに学ぶ乳児期	生理的早産とは		
8	乳児のこころの発達	身近な人との絆		
9	乳児のことばの発達	ことばの発達の道筋		
10	乳児のからだと運動機能	からだの成長と運動能力 乳児の睡眠・離乳食の基礎知識 保育者同士の連携の大切さや連携のあり方		
11~12	保育所で過ごす一日の流れ	日課表(デイリープログラム) 複数担任制とは		
13	保護者との連携	保護者との協力関係、保育者の専門性と守秘義務 虐待の発見と対応・発達の遅れ トラブルの背景と保護者との連携		

回	テ ー マ	内 容		
14～ 15	実践	だっこ、おんぶの仕方・乳児の衣服の着せ方 おむつ替え・授乳・沐浴の仕方・遊びと絵本		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
初めて学ぶ乳児保育 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 自作プリント		出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験 その他（演習）	10.0% 10.0% 20.0% 50.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
乳児保育Ⅱ		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 0, 1, 2歳児の発達のためやすの理解 ・ 保育のポイントと遊びの意味の理解 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本原理を踏まえ、指導計画の立案や実践の構築 ・ 保育者に求められる相談援助の技術や知識の習得 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、小学校教諭、保育士の資格をもち、幼稚園等の現場の実務経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1~2	1. 月齢や格年齢の発達のためやす	身体発育値 ことば、こころ 生活習慣		
3~4	2. 発達が目安と遊び	コミュニケーション作り 刺激や距離感 環境 感情表現と好奇心		
5	3. 食育	授乳と食事 離乳食と食への関心		
6	4. 基本的な生活習慣	自立と甘え(排泄、衣服の着脱と手順)		
7	5. 遊びと環境	時間と空間の保障 見ため遊びやごっこ遊びの充実 遊具と教材		
8	6. 遊びの種類	月齢、年齢に応じた遊びの種類		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 現場の視点で新要領・指針を考えあう こども、保育、人間(学研 汐見稔幸著) 自作プリント		出席率 授業態度 課題・レポート 実習・実技評価 その他(演習)	10.0% 10.0% 30.0% 20.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅰ(保育所)		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
保育所実習の事前学習として、保育所保育指針を基に、保育所や保育、保育士について知る。また、部分実習の準備として、指導案作成や模擬保育を通して、保育や保育士のあり方について知ることを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
○保育所保育指針を基本的には理解し、指導案の作成方法が分かる。 ○模擬保育を通して、保育の実際や子どもの発達等について考え、ある程度イメージできるようになる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	幼稚園教諭・保育士としての実務経験 保育実践を積んだ経験を活かして、現場に必要な知識や技術を教授する。			
時間外に必要な学修				
実習に必要なことを事前学習として、自主的におこなう。				
回	テーマ	内容		
1	実習の目的・実習カリキュラム・実習施設について	実習の目的・実習カリキュラム・実習施設について知る		
2	実習課題・指導案・日誌等について	実習課題・指導案・日誌等の書き方を知る		
3	事前訪問のアポイントメント・実習先オリエンテーションなどについて	事前訪問のアポイントメント・実習先オリエンテーションなどについて知る		
4	保育所保育指針の熟読・活用	保育所保育指針の再認識		
5	指導案について	指導案作成		
6~7	模擬保育	実践とその振り返り		
8	まとめ	実習前のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
近大テキスト『保育実習事前指導』 『保育所保育指針』 『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		出席率 課題・レポート	20.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習 I (保育所)		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位(90時間)	必須	松村 雅史
授業の概要				
現場における保育や保育士の役割などの実際を知る。				
授業終了時の到達目標				
自分が立てた実習課題を達成する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
随時いただいた指導を振り返って意識しておく。				
回	テーマ	内容		
1~45	現場における保育や保育士の実際	保育 保育士		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針 保育所保育指針解説書		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】 実習に行く前に実習の手引きとオリエンテーション資料等を読み直しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ピアノ		保育・幼児教育学科/1年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	山根 公美子
授業の概要				
読む、聴く、歌う、弾くことの基礎をバランス良く学び、指導技術の習得に結び付ける				
授業終了時の到達目標				
両手奏での弾き歌い、合奏指導において音楽的な表現が出来ること				
実務経験有無	実務経験内容			
有	エレクトーン演奏グレード5級、ヤマハ指導グレード5級の資格を持ち、エレクトーン教室等で31年の実務経験 この経験を活かし、学生の音楽表現力を高める実践的指導を展開する。			
時間外に必要な学修				
与えられた課題を自主的に練習する。				
回	テーマ	内容		
1～2	音楽の基礎知識・基礎的音感①	楽譜の読み方と音名		
3～8	音楽の基礎知識・基礎的音感②	ソルフェージュ ・メロディー模唱⇒模奏 ・リズム模唱、リズム打ち ・ハーモニー模唱⇒模奏		
9～10	楽曲演奏①	アナリーゼ		
11～14	楽曲演奏②	演奏 ・バス音 ・ハーモニー ・メロディー ・両手奏		
15～22	楽曲演奏③	弾き歌い ・歌詞唱		
23～28	総合	初見演奏 伴奏付け メロディー聴奏 ハーモニー聴奏		
29～30	合奏・合唱	指導法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
音楽 声楽教本 (近畿大学九州短期大学テキスト)		出席率	20.0%	
音楽 ピアノ教本 (近畿大学九州短期大学テキスト)		授業態度	20.0%	
		確認テスト	20.0%	
		課題・レポート	20.0%	
		期末試験	20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
総合演習 I		保育・幼児教育学科/1年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位(90時間)	必須	藤原希, 市原久
授業の概要				
<p>保育をおこなう上で必要な基本的知識や技術等を身につけるとともに、保育の現場で使用する素材研究、教材研究を行う。 実際の保育の現場を想定し保育の技術や教材について作成・使用できるよう、実践を用いて学ぶ。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育において必要な基本的知識や技術等を身につける。 保育現場で使用する素材、教材について基本的な知識を身につけ実際の保育現場を想定して作成、使用することができる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育所・幼稚園での勤務経験を活かし、実際の保育現場を想定してより実践的な授業の展開を図る。		
時間外に必要な学修				
保育に必要なことを考えて、事前準備をおこなう。				
回	テーマ	内容		
1~ 2	オリエンテーション 素材・教材研究①	1. 授業内容と目的の説明 2. 保育のツールを使って自己紹介		
3~ 4	素材・教材研究②	1. 自己紹介 2. 雑巾づくり		
5~ 7	素材・教材研究④	お誕生表の作成		
6	素材・教材研究⑤	クレパス・クレヨンについて		
8	素材・教材研究⑦	6月の壁面作成		
9~ 15	パネルシアター作成	パネルシアターの作成		
16	パネルシアター実演	パネルシアターの実演		
17	幼稚園教育要領について①	序章・前文		
18	幼稚園教育要領について②	第1章総則		
19	幼稚園教育要領について③	第2章ねらい及び内容		
20	幼稚園教育要領について④	第3章教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項		
21	幼保連携型認定こども園教育・保育要領①	序章		
22	幼保連携型認定こども園教育・保育要領②	第1章総則		
23	幼保連携型認定こども園教育・保育要領③	第2章ねらい及び内容並びに配慮事項		
24~ 27	指導案作成	指導案作成		

回	テーマ	内 容		
28～ 44	模擬保育と振り返り	模擬保育 振り返り		
45	まとめ	授業の振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 課題・レポート	10.0% 45.0% 45.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座 I		保育・幼児教育学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	市原久, 藤原希
授業の概要				
就職活動も含めながら社会人になるための基礎力を身につける				
授業終了時の到達目標				
1)3KAN教育(1.自己効力感 2.成長実感 3.学び続ける習慣)により企業が求める人材を育成する 2)基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の育成 3)目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	動機づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・3KAN教育について ・動機づけ ・担当紹介 ・服装身嗜み * 就職の手引き配布 		
2	スケジュール管理/適性検査	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動に向けた目標設定を行い、その目標を達成するための計画を立てる ・適性検査実施 ・就職の手引き説明 就職活動手順フローチャート 		
3	スラスラ書ける文章術	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動に備えたアウトプット中心の訓練 書く、話す、考える 文章の「型」を体得する ・論理的思考 ・考えを掘り下げる (「結論」→「根拠・事実」) ・文章の型の例「なたもだ」 		
4	自己覚知①	就職の手引 P6~P9 自己分析		
5	自己覚知②	就職の手引 P10~P12 自己分析 過去~未来		
6	ロジカルシンキング	<ul style="list-style-type: none"> ・「ものの見方で状況は良くもなり、悪くもなる。だったら、良くなる考え方をマスターして人生がもっと楽しくなる」ためのきっかけにする。 		
7	自己PR作成	就職の手引 P13~P14 自己PR作成(400文字)		
8	企業研究	就職の手引 P19~P24 就職相談室やインターネットを使って研究		

回	テーマ	内 容		
9	読書が楽しくなる読書術(1)	1. 読書の楽しみ方・本の選び方 1) 読書の楽しみ 2) 本の選び方 3) 書店・図書館利用法 2. 読書の活かし方 読んだだけで終わらない読書法 マスターして人生がもっと楽しくなる」ためのきっかけにする。		
10	自己PR作成及び50問50答作成	就職の手引き(P53～P64) ・50問50答のポイントについて説明【課題】 自己PRの記入		
11	ホスピタリティマインド 社会人としての心得	・ホスピタリティマインドとは ・日本のもてなし文化について ・身近なシーンでのホスピタリティ ・実践例 ・基本的なビジネスマナー ・会社訪問 ・電話対応 ・メールでのマナー など		
12	履歴書	・履歴書の記入の仕方について		
13	50問50答、自己PR完成、求職票 ①	・50問50答見直し ・自己PR完成 ・求職票の説明と下書き		
14	50問50答、自己PR完成、求職票 ②	・50問50答見直し ・自己PR完成 ・求職票の説明と下書き		
15	振り返り	・目標管理シートに基づき 自己の就職活動への準備について振り返る ・今後の活動に向けた新たな目標設定を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
就職の手引き 手帳		出席率	100.0%	2コマ欠課：A評価 4コマ欠課：B評価 5～8コマ欠課：C評価 9コマ以上：D評価 ただし、フォローを受けた場合はカウントしないが、最高はB評価とする 【準備学習】 前回の授業内容をしっかりと復習しておく。